

第2章 集計の結果

生活・就業実態調査の集計結果は以下のとおりである。

各質問項目ごとの回答集計表の表頭において、「東京」とあるのは東京分の「住居喪失者」、「(非正規)」は東京分の「住居喪失非正規労働者」、「大阪」は大阪分の「住居喪失者」のデータであることを示す。

回答対象者が一部の属性の者に限定される質問文については、質問文の冒頭に、「<住居喪失者(問B=7)に対して>」のように表示した(実際の調査票ではこの記載はなく、「Q〇へ進む」などの記述によって、回答すべき項目をコントロールしている)。

表中の「NA」は無回答を意味する。各項目のパーセンテージは四捨五入しているため、単純に合計しても100.0%にならない場合がある。

回収調査サンプル中の回答対象者数(住居喪失者)は、東京224人・大阪41人(ただしQ4～6は東京224人・大阪41人、Q13～15は東京171人・大阪25人、Q18～27は東京224人・大阪41人、Q16は東京81人・大阪18人、Q17は東京145人・大阪41人)である。

第1節 調査対象者の基本的属性

1. 性別

Q1 性別

	東京	(非正規)	大阪
1. 男	94.2(%)	92.5(%)	92.7(%)
2. 女	5.4	6.8	7.3
NA	0.4	0.7	0.0
	100.0	100.0	100.0

調査対象住居喪失者の9割以上が男性であった。

2. 年齢

Q2 年齢

	東京	(非正規)	大阪	〈概数調査〉	
				全国	東京
1. 19歳以下	0.4(%)	0.0(%)	2.4(%)	9.8(%)	2.0(%)
2. 20～24歳	15.2	18.5	4.9	13.2	6.1
3. 25～29歳	12.5	15.1	17.1	13.3	12.2
4. 30～34歳	8.0	5.5	24.4	10.0	12.2
5. 35～39歳	5.8	8.2	24.4	9.0	6.1
6. 40～49歳	20.5	22.6	14.6	12.8	24.5
7. 50～59歳	25.0	21.2	12.2	23.1	32.7
8. 60歳以上	12.5	8.9	0.0	8.7	4.1
NA	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

調査対象住居喪失者の年齢は、東京では、35歳未満の若年層(1~4)(36.1%)よりも35歳以上の中高年層(5~8)(63.8%)のほうが多い。大阪では、若年層(48.8%)と中高年層(51.2%)でほぼ2分される。

年齢別の分布をみると、東京では20歳代(2・3)と50歳代(7)に2つの山が見られるが、大阪では30歳代(4・5)を中心とした山が1つだけ見られる。

概数調査は、〈1日の利用者数〉ベースの数字であるため、〈存在数〉ベースに近い生活・就業実態調査の数字とは母集団が異なり直接比較することはできないが、あえて参考までに対比してみると(Q2の表の右側に付記)、概数調査においても、全国及び東京分において似たような2つの山がみられる(なお概数調査の大阪分は回収調査サンプル数が少ないため割愛した)。

このため、以下の記述においては、適宜、東京分について35歳未満を「若年層」、35歳以上を「中高年層」として、両者の傾向の相違を記述することとする(巻末別表に集計一覧表を添付した)。

3. 学歴

Q22 〈学生(Q12=5)以外に対して〉最後に卒業(又は中退)した学校は次のどれですか。

	東京	(非正規)	大阪
1. 中学卒業	19.2(%)	17.1(%)	22.0(%)
2. 高校中退	21.4	21.9	19.5
3. 高校卒業	43.3	48.6	41.5
4. 短大・高専・専門学校中退	3.6	3.4	2.4
5. 短大・高専・専門学校卒業	3.1	2.7	9.8
6. 大学中退	1.3	0.7	2.4
7. 大学卒業	4.0	2.7	2.4
NA	4.0	2.7	0.0
	100.0	100.0	100.0

調査対象住居喪失者の学歴は、「高卒」が4割以上を占め(東京43.3%・大阪41.5%)、「高校中退」(東京21.4%・大阪19.5%)や「中卒」(東京19.2%・大阪22.0%)もそれぞれ2割程度である。

東京分について年齢階層別にみると、若年層では「高卒」60.5%・「中卒」3.7%であるが、中高年層では「高卒」33.6%・「中卒」28.0%となっている。

第2節 住居関係の状況

1. オールナイト利用の理由

問B ネットカフェ・マンガ喫茶などをオールナイトで利用する主な理由として、次の中から最も近いものを一つ選んでください。(注:なお以下の選択肢における「住居」とは、ふだん帰る自宅やアパート、会社の寮・住込み先などをいい、遠い実家は含みません。)

	東京の全サンプル	大阪の全サンプル
1. パソコン・ゲーム・漫画等をオールナイトで利用するため	}	}
2. 遊び等で夜遅くなり「住居」に帰れない(帰るのがおっくうな)ため		
3. 仕事等で夜遅くなり(又は朝が早く)「住居」に帰れない (帰るのがおっくうな)ため		
4. 現在旅行(又は出張)中であり、宿がわりに利用		
5. 「住居」に帰りたくないため(ちかちか帰る予定)		
6. 「住居」に帰りたくない事情があるため(当分の間帰らない) よろしければ、その具体的理由を教えてください(注9)	76人(25.3%)	21人(33.9%)
7. 現在「住居」がなく、寝泊まりするために利用	224人(74.7%)	41人(66.1%)

2. オールナイト利用の頻度

問A ネットカフェ・マンガ喫茶などをオールナイトで利用する頻度はどのくらいですか。

	東京	(非正規)	大阪
1. 週5日程度以上	27.2(%)	32.9(%)	51.2(%)
2. 週に3~4日程度	29.0	36.3	12.2
3. 週に1~2日程度	21.4	18.5	22.0
4. 月に1~2回程度	9.8	5.5	2.4
5. たまに	11.2	6.8	7.3
6. 今回はじめて	1.3	0.0	2.4
NA	0.0	0.0	2.4
	100.0	100.0	100.0

調査対象住居喪失者のうち、「週に3~4日程度以上」(1・2)オールナイトを利用する「常連的利用者」が、6割程度(東京56.2%・大阪63.4%)存在する。

(注9)問B(オールナイト利用理由)で6(「住居」に帰りたくない事情があるため(当分の間帰らない))とした場合の具体的回答例は、「親・配偶者などとの関係がうまくいかず自分から又は追い出されて家を出た」(18人)、「家と職場の距離が遠い」(7人)、「借金とりたて」(2人)など。

なお、具体的回答例に()書きで付した人数は、東京・大阪・住宅喪失者・帰宅困難者すべての数字である(以下同様)。

3. 寝泊まりの場所

Q3 ネットカフェ・マンガ喫茶などのほかに、寝泊まりするためにどんな場所を利用していますか。よく利用するものに「○」、たまに利用するものに「△」を付けてください。(12. 以外複数回答可能)

(1)よく利用するもの	東京	(非正規)	大阪
1. ビジネスホテル・旅館	2.7(%)	0.7(%)	4.9(%)
2. カプセルホテル	16.1	13.0	0.0
3. 簡易宿泊所(ドヤ)	3.1	3.4	12.2
4. サウナ	23.2	21.9	7.3
5. カラオケ店	3.1	2.7	0.0
6. ファーストフード店	23.7	24.0	7.3
7. その他の飲食店	0.9	1.4	9.8
8. 路上(公園・河川敷・道路・駅舎等の施設)	29.5	21.2	22.0
9. 友人の家などに泊めてもらう	7.6	7.5	0.0
10. 夜は起きていて昼に図書館などで寝る	0.4	0.7	4.9
11. その他()	6.3	6.8	9.8
12. ネットカフェ・マンガ喫茶以外にはない	4.0	4.1	14.6
NA	0.0	0.0	0.0

(2)たまに利用するもの	東京	(非正規)	大阪
1. ビジネスホテル・旅館	0.9(%)	1.4(%)	7.3(%)
2. カプセルホテル	8.5	10.3	12.2
3. 簡易宿泊所(ドヤ)	0.4	0.0	2.4
4. サウナ	8.9	10.3	12.2
5. カラオケ店	5.4	6.8	0.0
6. ファーストフード店	22.8	28.1	9.8
7. その他の飲食店	8.9	11.0	0.0
8. 路上(公園・河川敷・道路・駅舎等の施設)	11.6	13.0	19.5
9. 友人の家などに泊めてもらう	14.3	19.2	9.8
10. 夜は起きていて昼に図書館などで寝る	1.8	2.1	4.9
11. その他()	1.8	1.4	9.8

(3)利用するもの((1)と(2)の合計)	東京	(非正規)	大阪
1. ビジネスホテル・旅館	3.6(%)	2.1(%)	12.2(%)
2. カプセルホテル	24.6	23.3	12.2
3. 簡易宿泊所(ドヤ)	3.6	3.4	14.6
4. サウナ	32.1	32.2	19.5
5. カラオケ店	8.5	9.6	0.0
6. ファーストフード店	46.1	52.1	17.1
7. その他の飲食店	9.8	12.3	9.8
8. 路上(公園・河川敷・道路・駅舎等の施設)	41.1	34.2	41.5
9. 友人の家などに泊めてもらう	21.9	26.7	9.8
10. 夜は起きていて昼に図書館などで寝る	2.2	2.7	9.8
11. その他(注10)	8.0	8.2	19.5
12. ネットカフェ・マンガ喫茶以外にはない	4.0	4.1	14.6
NA	0.0	0.0	0.0

調査対象住居喪失者のうち、寝泊まりの場所として「ネットカフェ等のみ」利用する者(12)は、東京では4.0%、大阪では14.6%である。逆に言えば、これらに該当しない96.0%(東京)・85.4%(大阪)の者は、寝泊まりのために路上やネットカフェ等以外の施設も利用しているということになる。

「路上」を利用する者の割合は、4割程度(東京41.1%、大阪41.5%)である。

その他の施設の利用の状況を見ると、東京では「ファーストフード店」(46.4%)や「サウナ」(32.1%)が多く利用されている。

これを年齢別にみると、「友人の家など」を利用する者は若年層で約半数(東京49.4%)であるが、中高年層では6.3%(東京)にとどまっている。

また、「路上」を利用する者は、若年層(東京34.6%)に比べて中高年層(東京44.8%)に多い。

参考までに、問Aに対する回答状況に基づくネットカフェ等のオールナイトの「(4)常連的用户者」(=週3~4日程度以上利用する者)の割合についてみてみると、その割合は中高年齢層(東京42.7%)に比べて若年層(東京80.3%)に多い。

さらに東京分について、寝泊まりの場所として「路上」を利用する者の割合について細かな年齢層別にみてみた。表11は、各年齢層の住居喪失者をそれぞれ100%とした場合の割合の表であり(「常連的用户者」の割合も付記した)、図3は、これを視覚的にイメージしやすくするために、住居喪失者全体を100%とした場合の年齢別分布図を描き、その中に、「A.路上を利用する者の割合」と「B.(ネットカフェ等)の常連的用户者の割合」を書き入れたものである。

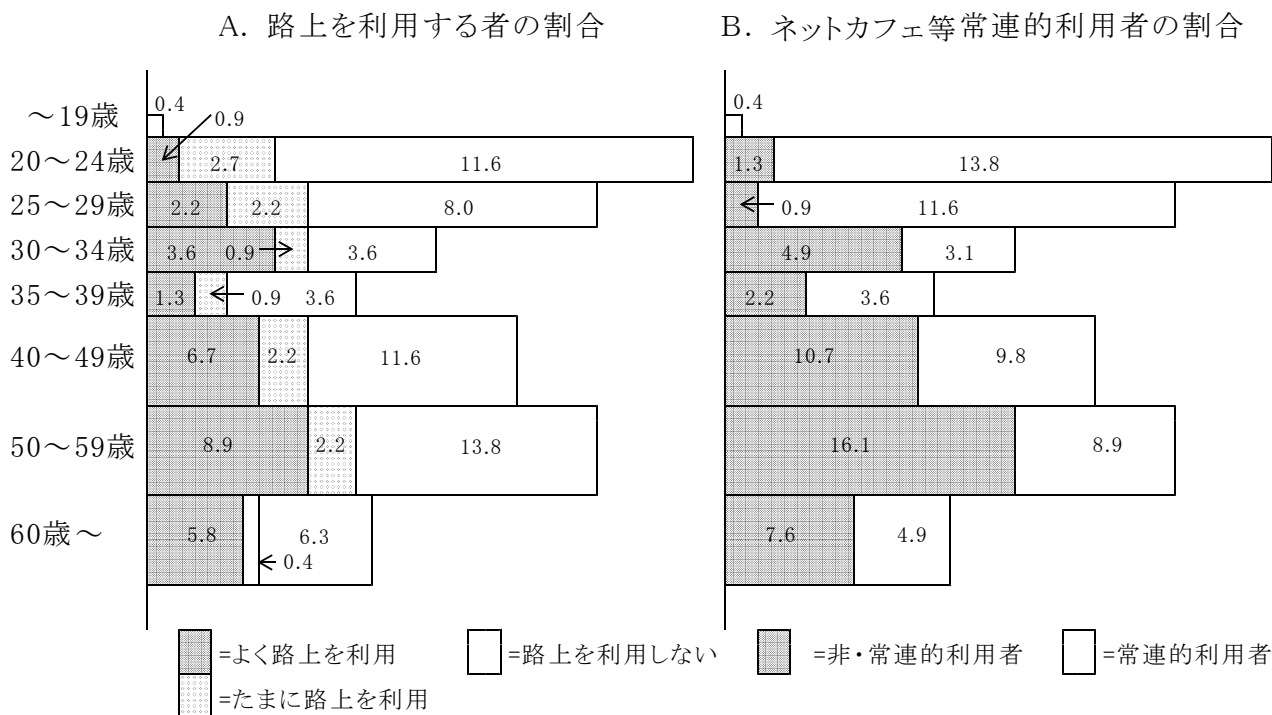
(注10) Q3(寝泊まりの場所)の11(その他)の具体的な回答例は、「ビデオボックス・ビデオ試写室・DVDボックス」(17人)、「時間制でない通常型喫茶店」(2人)、「レンタルルーム・レストルーム」(2人)、「仕事場」(2人)など。

表11 「住居喪失者」の年齢別の寝泊まりの場所 (%)

		寝泊まりの場所(Q3)						(4)「常連の利用者」 (問A=1・2)の割合	
		(1)「路上」を利用する者の割合 (Q3=8)							
				(2)「よく利用する」 者(○)の割合		(3)「たまに利用す る」者(△)の割合		東京	大阪
年齢	(Q2)	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
	1.～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	2.20～24歳	23.5	0.0	5.9	0.0	17.6	0.0	91.2	100.0
	3.25～29歳	35.7	14.3	17.9	0.0	17.9	14.3	92.9	71.4
	4.30～34歳	55.6	50.0	44.4	30.0	11.1	20.0	38.9	70.0
	5.35～39歳	38.5	40.0	23.1	10.0	15.4	30.0	61.5	70.0
	6.640～49歳	43.5	66.7	32.6	66.7	10.9	0.0	47.8	50.0
	7.750～59歳	44.6	60.0	35.7	20.0	8.9	40.0	35.7	20.0
	8.860歳以上	50.0	0.0	46.4	0.0	3.6	0.0	39.3	0.0
	全体	41.1	41.5	29.5	22.0	11.6	19.5	56.3	63.4

図3 「住居喪失者」の年齢別の寝泊まりの場所(東京)

(数字は住居喪失者全体に対する構成比(%))



その結果、東京の20歳代は、「路上」を利用する者の割合が他の年齢層に比べて低く(23.5%、35.7%)、またネットカフェ等の「常連的用户者」である者が9割を超えている。

一方東京の50歳代は、「路上」を「よく利用する」とする者の割合が35.7%と比較的高く、「常連的用户者」である者が35.7%と少ない。

これらのことから、東京の20歳代はネットカフェ等を中心的に利用する傾向があるが、50歳代はネットカフェ等を中心的に利用する者が少なく、その分、路上を利用するなど他の施設等も利用している傾向がうかがえる。

4. 住居喪失の理由

Q4 <住居喪失者(問B=7)に対して> 「住居」がなくなったのは、主にどんな理由によりま
すか。次の中から一つ選んでください。

	東京	(非正規)	大阪
1. 仕事を辞めて家賃等を払えなくなったため	32.6(%)	34.2(%)	17.1(%)
2. 仕事を辞めて寮や住み込み先を出たため	20.1	17.1	43.9
3. 仕事は続けているが、生活費がかさんで家賃等を払えなくな ったため	2.2	3.4	9.8
4. 借金などのトラブルがあったため	5.4	8.2	7.3
5. 家族との関係が悪く、「住居」を出たため	13.8	11.0	12.2
6. 家族との関係が悪いわけではないが、「住居」を出たかったため	4.5	5.5	2.4
7. 友人等と同居していたが、居づらくなりその家・部屋を出たため	3.1	3.4	0.0
8. その他 ^(注11))	11.2	9.6	4.9
NA	7.1	7.5	2.4
	100.0	100.0	100.0

住居を喪失するに至った理由としては、「仕事を辞めて家賃等を払えなくなった」(東京32.6%・大阪34.2%)、「仕事を辞めて寮や住み込み先を出た」こと(東京20.1%・大阪43.9%)が多くあげられており、「仕事を辞めたことが原因で住居を失った」とする者(1・2)が過半数を占めている。

ついで、「家族との関係悪化によって家を出た」者(5)も、東京で13.8%、大阪で12.2%となっている。

(注11) Q4(住居喪失理由)の8(その他)の具体的回答例は、「事業失敗」(3人)、「体調悪く収入減」(2人)、「仕事減による収入減」(2人)、「家賃値上げで払えず」(2人)、「近隣とのトラブル」(2人)など。「離婚」は「5. 家族との関係が悪く住居を出たため」へ、「仕事を求めて上京」は「6. 家族との関係が悪いわけではないが住居を出たかったため」へ整理した。

5. 住居のあった場所

Q5 <住居喪失者(問B=7)に対して> なくなった「住居」があった場所はどこですか。

	東京	(非正規)	大阪
1. 現在、寝泊まりしているネットカフェ等と同じ市区町村	8.5(%)	8.9(%)	14.6(%)
2. 現在、寝泊まりしているネットカフェ等と 同じ都道府県内の別の市区町村	33.5	37.0	29.3
3. 現在、寝泊まりしているネットカフェ等と 異なる都道府県の市区町村(通勤圏内)	30.4	27.4	12.2
4. 現在、寝泊まりしているネットカフェ等と 異なる都道府県の市区町村(通勤圏外)	22.3	20.5	41.5
NA	5.4	6.2	2.4
	100.0	100.0	100.0

喪失した住居があった場所については、東京では「都内や通勤圏内の近場」(1・2・3)にあったとする者が72.4%と大半を占める。

6. 住むところとして最後に頼れる場所

Q6 <住居喪失者(問B=7)に対して> 実家など、住むところとして最後に頼れる場所がありますか。

	東京	(非正規)	大阪
1. ある	43.3(%)	47.3(%)	22.0(%)
2. ない	53.1	49.3	75.6
NA	3.6	3.4	2.4
	100.0	100.0	100.0

住むところとして最後に頼れる場所が「ある」者は、東京では43.3%であり、大阪では22.0%である。

東京分について年齢階層別にみると、住むところとして最後に頼れる場所が「ある」者は、若年層で55.6%であるのに対して、中高年層は36.4%となっている。